GODEATER　～三爪炎痕の記録～

陸茶

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ＧＯＤＥＡＴＥＲ　～三爪炎痕の記録～

【Ｎコード】
Ｎ７１８４Ｚ

【作者名】
陸茶

【あらすじ】

フェンリル極東支部に雨宮リンドウが入隊し２年がたった頃、そこではある「奇妙な噂」が流れていた。
それは「討伐対象に三筋の炎の爪痕が残され殺されている」という噂。
リンドウは噂の真相を確かめるべく調査に向い、そこで「三爪炎痕」と呼ばれる正体不明の生物に遭遇する。
これは「三爪炎痕」とリンドウ達アナグラメンバーの記録。

「三爪炎痕」は何者なのか？何を目的とし荒神を殺していたのか――
そしてリンドウ達と共に過ごし何を感じるのか……

第0話　プロローグ（前書き）

フェンリル極東支部に雨宮リンドウが入隊し2年がたった頃、そこではある「奇妙な噂」が流れていた。
それは「討伐対象に三筋の炎の爪痕が残され殺されている」という噂。
リンドウは噂の真相を確かめるべく調査に向ったのだが……

第0話　プロローグ

２０６３年

―贖罪の街―

「ふう……」

荒れ果てた教会の中で、雨宮リンドウはタバコを口にくわえ火を付ける。

「しっかし……こりゃなんなんだ？」

目の前の死体に刻みつけられた特徴的な傷跡を見てリンドウは露骨に顔をしかめた。
そして頭をポリポリとかく仕草をしながら周囲に広がる惨場を見る。
リンドウの周囲に広がるのは生命活動を終え、すでに事切れた生き物たちの残骸と体液。

「最近はコレばっかじゃねぇか……
まぁ、おっさん的には仕事が減って楽なんだがなぁ」

リンドウはまた、ひとりごちを始めていた。
最近はこんな事ばかり起きている。
ミッションを受注し、現場に向かうと討伐対象は既に死んでいて現場、または討伐対象に特徴的な
傷跡だけが残されている。

「お前さんは、見たのかい？『三爪炎痕（フレイムエッジ）』を」

リンドウはソレに向かって訊ねた。
だが、リンドウの瞳に映るソレは何の反応も示しはしなかった。
ただカッと見開いた瞳に、まるで鏡のようにリンドウを映しているだけ。
当たり前だ。
ソレはとうの昔に生命活動を終えていたのだから。
その死体（み）に三筋の炎の爪痕を刻まれて。

ソレを一言で表すとすれば、『異形』である。
虎といったか――そんなことは、まぁどうでもいい。
その虎とか言ったものを連想させるモノの体躯は非常に大きかった。
リンドウが子供に見えてしまうぐらいソレは大きい。
また、ソレには既存の生物にはない特徴的な個所がいくつか存在する。
例えば首の後ろから生えた幾枚の花弁にも見える金色の体皮。
殆ど欠損はなく、まるでそれは獣の王のみが身に着けることを許さ

れた外套(マント)。
そしてリンドウへと向けられる赤く濁った、御世辞にも決して綺麗とは言えぬ瞳。
白く豊かなひげを蓄えたソレはまさに、暴虐の限りを尽くす王の形相。

ソレはヴァジュラ神種の中でも特に強大な力を持つ
帝王『ディアウス・ピター』
と呼ばれる存在。
人面獣身のその異形(からだ)。本来ならば決して存在してはいけないモノ。

だが、今はそのような異形で世界は満たされている。
正しい進化を遂げていたならばこのような異形(せいぶつ)は、決して生まれない。
正しい生態系からも決して誕生しない異形(せいぶつ)。

やがて、このような異形の生物――
生物と呼んでいいのかすらも怪しいモノたちは、かつて『日本』と呼ばれていた国に伝わる八百万(やおよろず)の神にたとえられるようになり、『アラガミ』と呼ばれるようになった――。

「答えられるワケ、ないよなぁ……帝王さんよ？」

モノ言わぬ帝王から視線を戻し、二本目のタバコに火を付けようとした瞬間――

リンドウの感覚が周囲に生まれた気配をとらえた。

「まいったね、こりゃ……ちぃーとばかしのんびりし過ぎたか？」

リンドウはタバコに火を付けるのを止め、懐にしまい立ち上がり、彼は壁に立てかけておいた己の武器を握りしめた。

ソレは一見すると巨大な鉄の塊にも見える。
だがよく見ると、ソレはリンドウの身の丈ほどもある巨大な剣だった。
鮮血に彩られたかの様な赤いチェーンソーの刀身を持つ巨大な剣をリンドウは軽々持ちあげる。
そして周囲に目を走らせた。

荒れ果てた教会のあちらこちらから気配の主、『アラガミ』達はソノ姿を現す。
般若の面とも、鬼のモノとも取れる奇怪な尾を振り上げ、その双眸に獰猛な狩人の目と同じ光を宿し、近づいてくるのは『オウガテイル』とよばれる『アラガミ』。
『オウガテイル』と言うアラガミは先程の帝王に比べその体は小さい。
単体の強さもそれほどではなく、新米のゴッドイーター達の初陣の相手にされることが多い。
だが、群れられるとそれなりの脅威となる。

「ちゃっちゃと『コア』を回収して帰りゃ良かったな……」

リンドウは帝王をちらりと一瞥すると、肩を竦めアラガミ達に視線を戻す。
そして彼は八百万の神々に例えられた≪アラガミ≫を屠る事の出来る、唯一の剣『神機』をその手に構えた。

『アラガミ』は非常に特異で厄介な性質を持つ。
その性質とは、ありとあらゆる物質を『捕喰』すること。
コンクリートや鉄などの無機物だろうが、動植物の様な有機物だろうが関係ない。
例え同じ種である『アラガミ』だろうと奴らは関係なく《捕喰》する。

そればかりか『アラガミ』は自らが捕喰した物体の情報を己(おの)が身に取り込み、その体を《変化》させる。
しかもそのスピードは恐ろしく早い。
世界が、動植物が、人間が長い年月をかけ行ってきた進化のスピードなんか比べ物にならない程に。
まさにそれは《アラガミ》と言うの名の通り、人智の及ぶことの無い《神》の領域に等しいモノ。
奴等がそんな性質を持っているからこそ、帝王『ディアウス・ピター』の様な《アラガミ》の中でも上位とされる力を持った《アラガミ》を、こいつ等なんかに喰らわせるわけにはいかない。
絶対に――。

オオカミの様に巨大な顎の奥から低い唸り声をあげ、『オウガテイル』の群れがリンドウを取り囲む。

「美人のお姉さん方に囲まれるのなら大歓迎なんだがな……」

構えた神機をダラリと下げて、ふと思う。

目の前にいるのが『アラガミ』とは言え、やはり軽口を叩ける方が調子が良いようだ。

リンドウはゆっくりと足を踏み出し、無造作ともとれる挙動でオウガテイルの間合いへと侵入していく。

オウガテイルの動きにも「迷い」といえそうなモノは見受けられなかった。

それはオウガテイルという一つ生命体の意志なのか、それとも本能か。

はたまたオウガテイルの身体を構築しているオラクル細胞一つ一つの意思なのか――

オウガテイルは自分の間合いに入ってきた哀れな獲物を捕食せんと、その巨体を支える両脚と悪鬼の様な尾に力をこめる。

両脚の筋肉はギリリリ……と、力を加えられ軋むバネの様な音が聞こえそうな程に盛り上がってゆく。

そして、オウガテイルはその力を一気に開放し獲物(リンドウ)へと飛び掛かる。

リンドウの目の前に、大口を開けたオウガテイルが迫る。

下顎から突き出る鬼の角にも見て取れる双牙は、いとも容易く獲物(リンドウ)を貫き通し、その肢体を一切の容赦なく、誰のものと分からぬただ

の肉片へと変えてしまうのだろう。

「《アラガミ》様の熱いキッスはお断りさせてもらおうか……！！」

刹那、リンドウの右腕が跳ね上がり神機（ブラッドサージ）の刃がオウガテイルは首をとらえた。

「うおおおぉぉぉぉぉっ！！」

一瞬、右腕の筋肉が膨れ上がる。
リンドウはオウガテイルの首筋に食い込んだブラッドサージの刃をねじ込む。
刃をねじ込まれたオウガテイルの首は切り飛ばされる。
首を失ったオウガテイルは鮮血を吹き出しながら地に伏した。

オウガテイル達は低いうなり声をあげながら後ずさり、リンドウから少しばかり距離を取る。
それらの発した唸り声は人間であれば警戒の声（メッセージ）だったのかもしれない。
もっとも《アラガミ》に感情があるとは思えないが。

リンドウはその場を動かず、ブラッドサージを構える。
彼のその瞳は完全に狩人のソレだった。

「……！？」

突如、異様で強大なプレッシャーをリンドウは感じた。
そして彼はさらに感覚を研ぎ澄ませる。
オウガテイル達はというと、蜘蛛の子散らすようにして足早にその場から去って行った。

「この感じ……まさかと思うが、な」

リンドウは神器を構え、周囲を警戒しながらゆっくりと朽ちた教会を出る。
そして彼はCエリアと呼ばれるこのエリアの中ではかなり開けた場所に来た。
彼はCエリアの中腹、教会へ入るもう一つの入口の所まで来ると壁に身を隠し「ふぅ」と息を吐きだした。
リンドウが気を引き締め直し再びその身を戦場へと投じた次の瞬間、プレッシャーの主はその姿を現した。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7184z/

GODEATER　～三爪炎痕の記録～

2011年12月23日23時57分発行